



2010/2/10開催・月例セミナー

「バリュー(割安)」運用の真の意味

～本源的価値、割安状況、割安状況解消の道筋(カタリスト)～

アンケート結果

HCアセットマネジメント株式会社



「セミナーテーマに関するアンケート」結果報告

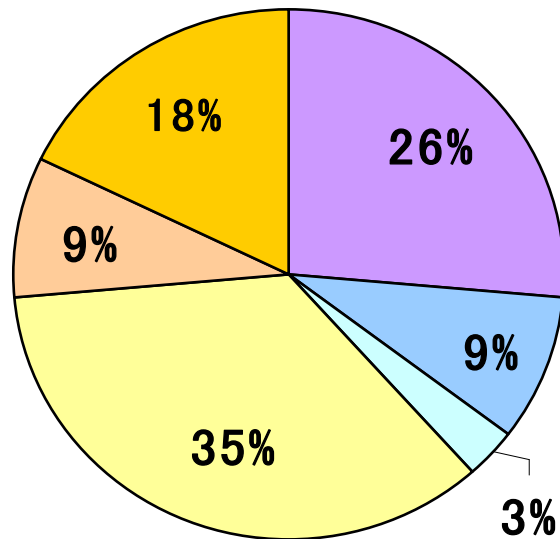
「バリュー」と「グロース」というような伝統的なスタイルの運用手法の分類
についてアンケートを実施。

- ・セミナー参加者人数 計42名
- ・アンケート回答者人数 計34名

回答率 : 80%

※小数点第一位以下切捨

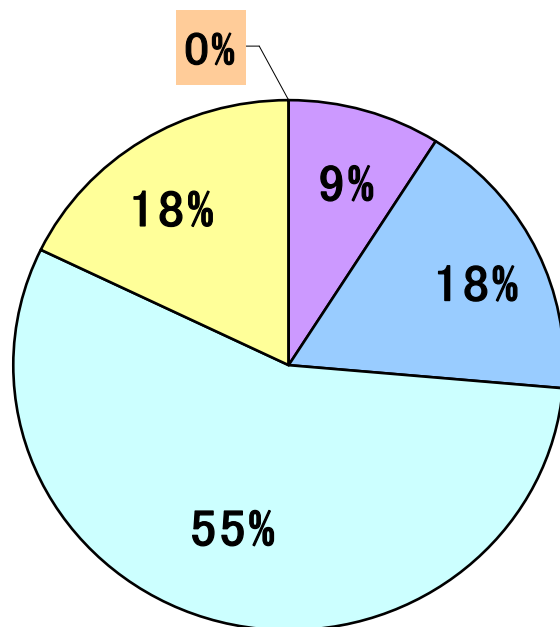
アンケートにご協力頂いた方の業種別割合



	人数
①	9
②	3
③	1
④	12
⑤	3
⑥	6
合計	34

- ①年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ②金融機関の自己資産運用担当者
- ③大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤コンサルタント
- ⑥その他

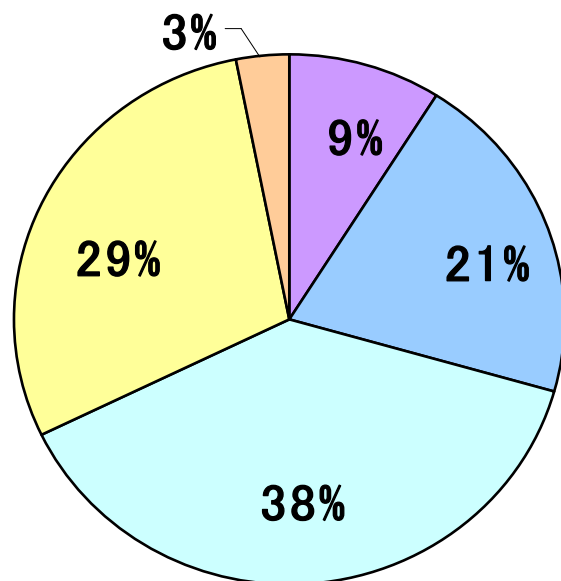
Q1 「バリュー」と「グロース」というような伝統的なスタイルの区分について、どのように、お考えになりますか。仮に、運用会社を選ぶ立場(投資家やコンサルタント)に立ったとして、一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。



	人数
①	3
②	6
③	19
④	6
⑤	0
合計	34

- ①そもそも、一定の既成概念で運用の手法を分類することは、不可能。
- ②一定の運用手法の分類は、技術的にあり得ても、適当でない。
運用会社に形式的なスタイルの枠に拘泥した運用を強制させる弊害があるのみで、有害。
- ③全く自由な運用というのも、問題がある。合理的な分類方法に基づいて運用会社を選択する必要がある以上、不可欠。
ただし、本当にリスク分散等の視点で有益かどうかは、わからない。
- ④運用会社の選択にとっても不可欠だし、リスク分散等の視点でも有益。
- ⑤その他

Q2 全く同じ質問ですが、仮に、選ばれる運用会社の立場に立ったとして、一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。



	人数
①	3
②	7
③	13
④	10
⑤	1
合計	34

- ①そもそも、一定の既成概念で運用の手法を分類することは、不可能。
- ②一定の運用手法の分類は、技術的にあり得ても、適当でない。
運用会社に形式的なスタイルの枠に拘泥した運用を強制させる弊害があるのみで、有害。
- ③全く自由な運用というのも、問題がある。合理的な分類方法に基づいて運用会社を選択する必要がある以上、不可欠。
ただし、本当にリスク分散等の視点で有益かどうかは、わからない。
- ④運用会社の選択にとっても不可欠だし、リスク分散等の視点でも有益。
- ⑤その他